

Freude

vol. 6-30 2023.06.14 wed

6/21(水) 18:30 天王寺区民センター
 6/28(水) 18:30 川口教会
 7/1(土) 13:15~ 中央会館
 /2(日) 13:15~ 強化練習!!

来週は天王寺区民センターです。そしてチケット説明します。

先週は礼拝堂での練習でした。会場が違くと声の響き方が全然異なること、感じましたよね～。会場に応じて、声の出し方を変えていける応用力も必要。ということで、ときどき「広い会場」での練習もメニューに入れていきます。来週はその第一弾！天王寺区民センターでの練習です。コロナ前からの継続団員にはなじみの会場。こんごもたびたび利用予定。間違えないようにね！



そして21日は、いよいよ「チケット申込の説明会」を行います。担当はT宮下さんです。

私たち大阪フロイデ合唱団は、音楽について「作曲されて、それを演奏して、お客様に届いて、初めて『音楽』となる。」ということ大切にしています。(自分で歌って嬉しいだけ、というのはカラオケ^^;) お客様に届けてこそその音楽です。ですから「聴いてくださるお客様」を自分たちの手で集める、ということも音楽を作るための大切な活動です。「友人がチケットを買って聴いてくれる」ことでアナタ自身の「演奏に責任を持つ」意識も高まるよ！いい演奏を届けよう！

そして、運営の上でも、演奏会のチケット収入は重要。日常経費は団費で、演奏会経費はチケット収入でまかさないですが、3月の総会でも説明したとおり、今シーズンから「演奏会二週間前時点で赤字が見込まれる場合は団員から協力費を集めて補填する（これまでは貯金補填でしたが、先期の赤字補填で貯金を使い切ったため）」としています。いずみホール821席のうち、650席埋まることが財政目標です。今回は嬉しいことに団員がたくさん集まり、日常経費は黒字予想。ですからチケット拡大数が650に満たなくても、多少なら日常経費の黒から補填できそうです。しかし、今回のモーツァルト「レクイエム」以降も大阪フロイデ合唱団を健全に運営していくことを考えると、演奏会も収支トントン以上にして、全体の黒字分は来期以降の運転資金として少しでも持ち越せるようにしたい、ということも切実な気持ちとして、あります。

こんなふういろんな意味で大切な「チケットをひろめる」ということ。チラシをどんどん活用してお客様を誘いましょう。今回の曲に関しての宣伝ヒントをニュース裏面に掲載しています。コピーして手紙に添えるなどして使ってね。また、図書館、公共施設や行きつけのお店など、チラシを置いてくれるところありませんか？ぜひアナタが持って行って置かせてもらってください。ときどき見に行き行って補充も忘れないで！A3拡大コピーしてポスターとして使うのもアリだよ！

いま「暗譜のためにいつも楽譜を持ち歩いてる」というアナタ、今日からは「楽譜とチラシ」をいつも持ち歩こう！

出会った相手にすかさずチラシ！時間があるときはひたすら楽譜！これでいきましょう！

モーツァルト（1756ザルツブルク～1791ウィーン）時代「音楽家は教会に仕える」のが当然でした。モーツァルトにとって最初のザルツブルク大司教シュラッテンバッハは音楽への理解もあり、音楽旅行も存分にできた神童モーツァルト。ところがモーツァルト15歳から着任したコロレド大司教は全くのわからずや！演奏時間の制限も厳しく、作曲もままならない、モーツァルトも我慢の限界、25歳でザルツブルク脱出、フリーランス音楽家としてウィーンへ！音楽世界が広がります。モーツァルトの肖像画はたくさんありますが、宮仕え時代は「カツラスタイル」、ウィーンフリーランス時代は髪の毛もじゃもじゃ肖像画。だいぶ印象違いますよね。今回は、ザルツブルク時代の若きモーツァルト作品とフリーランスの集大成作品をおおくりします。モーツァルトの生涯スケッチをお楽しみください。



「サンクタ・マリア・マートル・デイ」

1776年ごろの作品。ザルツブルクの楽団に勤めつつも、雇い主＝コロレド大司教が窮屈で、脱出を試みていたとき、いわば「就活」で訪れたパリ旅行の際に作曲されました。明るくてキラキラして「ザ・モーツァルト」です。

1750
Mozart
1756年
ザルツブルク
大司教
シュラッテンバッハ
20才10才
楽を旅行
ごんま!!
15歳
大司教コロレド
相性最悪!
ちんぱり!!
25歳脱出
ウィーン攻め点
食えた4倍
自由な音楽!
1791年35歳



Finis Requiem

モーツァルト

「レクイエム」

Wolfgang Amadeus Mozart

1756.1.27 Salzburg - 1791.12.5 Wien

モーツァルトの遺作「レクイエム」は、モーツァルトが、35年の短くも凝縮した生涯の最後に、命を削って紡ぎ出した音楽。作曲途中で亡くなり、弟子のジュスマイヤーがレクイエムの体裁に整えました。モーツァルト作品の中でも特別な曲、没後230年以上ですが、更に輝きを増して届きます。モーツァルトの世界をぜひ、いずみホールでお楽しみください。